

## ネギの周年生産のための春夏どり栽培 (2) 周年生産体系の現地実証と経済性の試算

農林総合研究センター（食品開発・流通担当）

キーワード：ネギ、周年生産、平床移植機、トンネル栽培、マルチ

### 1 技術の特徴

園芸研究所などが開発したネギ平床移植機を活用した5～8月出荷技術を確立し、周年生産を実現した。そこで、技術の現地実証をもとに経済性を評価したところ、ネギ周年生産体系は多品目複合生産体系より収益性が高いと試算された。

### 2 技術内容

技術開発した春夏どり栽培と移植機による平床栽培を組み合わせたネギの周年生産体系について、現地実証および経済性の評価を行った。

#### (1) 現地実証

熊谷市妻沼地区の水田転換畑ほ場50aにおいて、ネギの平床栽培を周年実証栽培した。

定植の作業能率は2名・6時間作業で最大5.5a（10a当たり延べ22時間）と高かった。

春夏どりネギ平床移植機実証ほの収量は、トンネル被覆区3857kg/10a、無被覆区3640kg/10aであった。これは、地域の平均収量とほぼ同等であった。規格別割合は、2L規格の割合が高かった。市場平均単価により販売金額を算出したところ、1,285～1,362千円/10aであった。

#### (2) 損益分岐点分析

平床移植機を利用した春夏どりネギ生産販売費用は、変動費422千円/10a、年間固定費4,972千円であった。収穫量を3.5t/10a、単価を東京中央卸売市場の平均単価である261円/kgとすると、売上高は914千円/10aと試算される(図)。このときの損益分岐点作付面積は101aであった。

#### (3) 経営モデル

作成した経営モデルは、経営耕地面積500a、労働力9人（男4人、女5人）の雇用型露地野菜経営を前提とした(表1)。モデル作成には試算計画法と損益分岐点分析を併用した。

経営類型は春夏どりを導入したネギ専作周年体系とネギ秋冬どりとヤマトイモ、ニンジン冬まきトンネル栽培を組合せた露地野菜多品目経営の2類型とした。

経営モデルの試算では、ネギ周年体系は売上高5,018万円、生産費2,887万円で所得2,131万円であった。ネギとヤマトイモ、ニンジンを組み合わせた複合体系は、売上高3,916万円、生産費2,591万円で所得1,325万円であった(表2)。ネギ周年生産体系と他作物との複合体系の単位面積当たり所得を比較すると、ネギ周年体系が複合体系の年間所得を16万円/10a上回った。

### 3 具体的データ

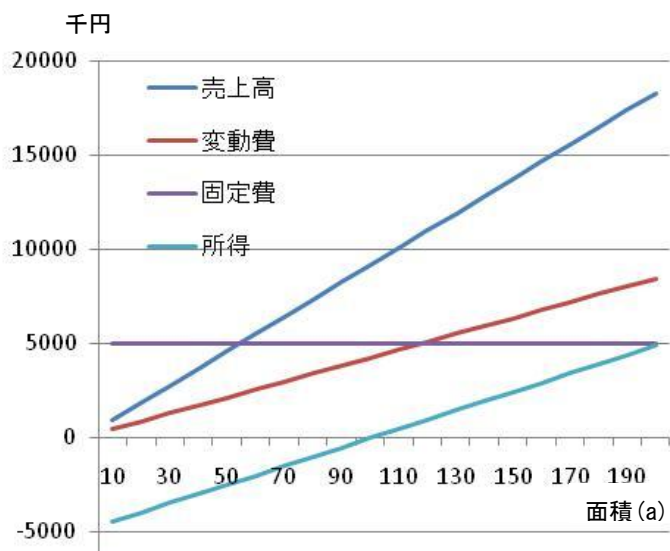


図 損益分岐点分析

表 1 経営モデルの前提条件

項目	内容
経営耕地	畑500a (自作地50a、借入地450a)
労働力	9人(男4、女5 うち雇用8)
資本装備	トラクター、トラック 動力噴霧機、平床移植機 収穫機、皮むき機、ロータリー、プラウ、管理機、サブソイラ、パイプハウス

表 2 ネギ平床移植機利用体系経営モデルの収益性

モデル	作目	作型	栽培面積	売上高 (万円)	生産費 (万円)	利益 (万円)
ネギ周年体系	ネギ	冬どり	200a	1,699	1,180	519
	ネギ	春夏どり	100a	1,047	652	395
	ネギ	秋どり	200a	2,272	1,055	1,217
		合計	500a	5,018	2,887	2,131
ネギ複合体系	ネギ	冬どり	200a	1,699	1,180	519
	ヤマトイモ	露地普通	200a	1,817	1,043	774
	ニンジン	冬まき	100a	400	368	32
		合計	500a	3,916	2,591	1,325

### 4 適用地域

県内全域

### 5 普及指導上の留意点

平床移植機を活用した大規模周年栽培体系をもとに試算した経営モデルであり、生産方式や経営規模が異なる経営体では、数値の検証が必要である。

### 6 試験課題名 (試験期間)、担当

平床移植機を活用した作期拡大技術によるネギの省力周年生産体系の確立 (2007~2009)、園芸研究所 (露地野菜担当、野菜・花担当)、戦略プロジェクト第1研究担当、食品開発・流通担当